
J 星人

柳 大知

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

J星人

【Nコード】

N3538F

【作者名】

柳 大知

【あらすじ】

人口わずか12人のJ星。この星で宇宙船が開発され地球旅行がブームに。だが、ひとりのJ星人が掟を破り地球人に接触！すると不思議なことが…

宇宙のどこかにある小さな星。星の名前はJ、人口わずか12人。彼らは己の行動に必要なエネルギーを体内で生成でき、体の自己修復も可能という不死の存在。性別は無く、外見は皆一緒に銀色の肌をしていた。

ある時、このJ星で一人乗りの小型宇宙船が開発され宇宙旅行が可能になった。

そして、初めて宇宙に出たJ星人が地球という星を発見し帰還した。調査が進み、彼らの宇宙船が地球人の目に映らないことが分かった。地球観光が始まった。

星の資源に限りがある為、宇宙船を新たに製造することは出来なかったが、時間を気にしない彼らは、交代で地球へ行き、地球人や生物の観察を楽しむようになった。これが彼らの最大の娯楽となった。

そんな彼らの唯一の決まりで地球の生物とは接触してはならないという掟があった。

しかし、彼らにとって地球は刺激的であり何事にも興味をそそられた。

そして、ある時、カイというJ星人が、掟を破った。

カイは、部屋で寝ている地球人の体に触れた。

すると、地球人の体の内部に入り込み、あっという間に地球人と同化してしまった。

そして意のままに、その地球人を動かすことができたのである。

地球人と化したカイにとって、出来ることすべてが未知の体験である。

手足を動かすことが出来る、地球人と会話も可能だった。

また不思議と沸いてきた食欲もできる。すべて素晴らしいものだっ
た！

あっという間に数日を地球人として過ごし、未知の感覚を味わい楽しんだ。

カイは、まだまだやりたい事が沢山あったのだが、この発見を仲間に知らせるため、星へ帰ることにした。

地球人の体から離れるのは、入ったときと同じようにあっさりと出来た。

カイが抜け出ると、地球人はバタリと床に倒れた。そして、そのまま動くことはなかった。

不思議に思い、地球人の心臓に近づき音を聞いた。何も聞こえない。

心臓から音がしないということは、たしか、死：

星に帰ったカイは、この事実を報告した。

J星人達は、この発見に驚き、喜んだ。

だが、最後に地球人が死んだことを聞くと、ひどくショックを受けた。

彼らにとって死というのは特別な物であった。

話し合いの結果、地球人との同化は禁止された。

だが、あるものがこう言った。

「地球人は我々と違い病気や怪我で死ぬ。一度死んだ地球人と同化するのには駄目か」

「だが、死んだ地球人が生きかえるのは不自然だ。我々の存在が気づかれるかもしれない」

「なら、誰にも気づかれずに死んだものなら？」

「それなら！私が同化した地球人！彼ならまだ誰にも死を知られていないはず。」

その一言でカイは再び地球に向かうことになった。

再び、地球へやってきたカイはあの地球人の倒れている部屋へ向かった。

そして再び同化を試みた。それは上手くいき地球人の体を動かすことが出来た。

「やった」

しかし、前に地球人と同化した時と比べ、明らかな異変があった。体から変な臭いがしている。

カイは地球人の体を調べた。どうやら肉体が腐敗しているらしい。J星人は自分の体の再生が可能である。だが、地球人と同化している場合はどうなのか？

心配などすぐに消えた。肉体の再生に成功したのだ。

地球人が死ぬと時間と共に状態が悪くなるようだ。

しかし、なるべく早く交代をしていけば問題ないだろう。

それから、J星人達はその地球人の死体を使い、代わる代わるに地球人の生活を味わった。

幸いなことにこの地球人は金持ちで使い切れぬほどの貯金があった。J星人達はそれを使い豪遊した。

そして普通の地球人が睡眠を取っている時間に中身が交代する。

その時に、必ずその日の行動や会話を伝え、記憶を共有し怪しまれないようにした。

彼らは地球の生活に順応していった。

だが、あるとき地球から帰ってきた宇宙船が突然、故障してしまった。

結局それを直すのに地球の時間で2週間かかってしまった。宇宙船が直ると、ちょうど順番だったカイが、地球へ向かった。

カイがあ部屋へ行くと、いつもならある体が無かった。

どうしたのだろうか、カイは体を搜した。

だが、見つけることはできなかった。

どうやらあの臭いで死体が発見され、処理されてしまったらしい。困ったことになった。カイはとりあえず星に戻った。

「さて、どうしたものか。我々が利用していた体が無くなってしまった。」

「新しい死体を見つけて使えばいい」

「しかし、誰にも死を知られていない体を見つけるのは難しいぞ。」

「一人暮らしの老人とかはどうでしょうか？」

「それなら見つかるかもしれないが、肉体が衰えていて使いにくいだろう」

「なら再生させて若返らせれば」

「しかし、あまり変化が大きすぎると誰かに気づかれる。」

「なら、カイがやったように…」

「我々が奪うというのか？それはだめだ！」

「でも、あなただって、まだまだ地球人の生活を楽しまたいでしょう？」

「それは…」

「なら決まりですね」

「そうだ、次は、女の体にしてみないか？」

「それも、いいな」

J星人達は、地球人の生活の虜になっている、それだけJ星では味わえない刺激が溢れているのだ。

彼らは今日もどこかで…

(後書き)

2作目です。

まだまだへたくそです。；；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3538f/>

J 星人

2011年1月27日13時13分発行